

研究会の視点

- 単元構想を行う上で、教材研究をどのように行えばよいか
- 教師の『出』が適切であったか（子どもが自分たちの手で授業を展開し、つくっていくために）

4・5組（大西・玉川級） 「やさいもりもりぞだて隊！」

【担任の意図】

自分の育てた野菜のことを友達に伝えたり、みんなで協力してピザを作ったりする中で、野菜への関心を高め友達とかかわる楽しさを感じる。

【授業の様子】

自分の野菜の様子を絵に描いたり、どんな言葉がけをしたのかを語ったりする姿が見られた。ピザ作りでは、みんなで声をかけ合い協力する姿が見られた。活動をスムーズにしていく上での場の設定や学級としての1時間のめあてのもち方が課題。



2年2組（中尾級） 「ウコッケイをよろこばせてあげたい」

【担任の意図】

ウコッケイの飼育を通して、その生命に責任をもってかかわることや、飼育小屋にも目を向け、飼育小屋の現状をよりよくすることで、ウコッケイがより快適に過ごせる環境を整えて行くにはどうしたらいいかを考えさせる。

【授業の様子】

ウコッケイの飼育活動の振り返りを話し合う活動を通して、野毛山動物園の飼育員の方の飼育の仕方へのアドバイスから自分たちの飼育の仕方を振り返ったり、見直したりした。



4年1組（吉川級） 「おいしく食べ隊 学校の木の实」

【担任の意図】

梅の実の観察や加工して作った梅ジュースの試飲をして集めた梅の魅力伝え合い、学校にある梅の実の魅力を見つめ直し、これからの活動について考える。

【授業の様子】

梅の実や梅ジュースから、梅の魅力について実感的に考えることができた。試飲後は話し合いが活発になり、色や香り、味など様々な視点からの意見が出た。今後の活動についての話し合いでは、もう少し見通しをもてると良かった。



5年2組（遠藤級） 「ひびかせよう！「さいこう」なお囃子の音」

【担任の意図】

お囃子の演奏を見たり聴いたり、師匠から教わったりして考えたことを話し合い、これから稽古をしていくうえで大切にしていかなければならないことに気づき、意欲を高める。

【授業の様子】

伝統芸能であるお囃子で大事にされていることや身に付けていくことのたいへんさを感じていたが、これからの稽古に対して前向きに考えをもつことができていた。子どもの発言の中に、お囃子の本質があった。それを取り上げると良かった。



講師の先生から

- 評価規準を具体的につくることで、発問や板書等の手立てが明確になる（総合）。
- 授業の後半、「しかけ」を出すとき、子どもたちがそれを必要とする時間をつくり出す。（総合）
- 「横浜の時間」は人とのかかわりを大切にしている。（総合）